様式３

提案趣旨説明書

〈作品タイトル〉

アキチからマチへ

〈提案の趣旨〉

現在、必須対象エリア内に点在する空き地はそれぞれが小規模で道路によって分断され、イベント時には人があつまるものの、日常的に人が集まる空間とはなりにくい。また、商業施設も分散し、一体的な賑わいを形成することが難しい。また、エリア内には相当数の居住人口があるものの、その活動は屋内にとどまり外を歩いている人は少ないことが挙げられる。

〈提案１〉**アキチをマチに変える２つの STEP**

STEP1

外に出たくなるきっかけ作りを行う。オフィスなどの職場がある通りにベンチや椅子を設置し、野外で昼食をとれるような環境作りを行う。つかう Meet 活動の一環として、空地にキッチンカーを誘致し、昼休みの賑わい拠点を形成する。これを継続して行うことで日常的にキッチンカーなどの仮設店舗が集まり、今まで室内にいた人々も外に出て、街に賑わいが生まれる。

アリーナ動線に沿って空き地に JR 在来線、新幹線駅舎に用いられている三角形の屋根形状を取り入れたパビリオンを設置し、影のある休憩スペースを確保する。このパビリオンは分解、電源設備などの多種多様な装備をしており、マルシェやバザーなど様々なイベントに対応できる。三角形の屋根はデンマークの街並みを彷彿とさせるとともに、シーホースのテーマカラーであるシーホースブルーの青を採用しシーホースのホームタウンとしてのイメージ定着を図る。

STEP2

近い将来都市においては、これまで車の通行空間であった道路が歩車共存空間に変化し、歩道、車道の区別がなくなると予想されている。エリア内においても主要幹線道路以外の道路の車道アスファルトを石やレンガなどの自然素材舗装に変え、広場のような空間に改修することで、人々が道路を渡って自由に街を回遊できるような、まちの空間形成を図る。

道路を広場に変えることで道路を挟んで向かい合っている建物は広場を囲む建物となる。広場を囲む建物の低層部は広場に顔を向けた商業施設に改修する。さらに将来、このような広場を囲む建物を増やし、広場とそれを囲む建物が連続する都市空間の形成を目指す。

〈提案２〉**市民とまちの「きずなを生む」駅前広場**

駅のモデルとなったデンマークの風景をモチーフに花壇によって駅前広場を彩る。市民が都市の緑を育むシェアプランターを設置する。公共空間にある植物を市民が育てることで、この場所の景観を任されている使命感と、住んでいる三河安城市を身近に感じられるきっかけになり、安城市の政策にある「きずな」が醸成される。

〈提案３〉**市民のための水と緑の回廊形成**

明治用水路の上部にかかる地盤を撤去、水辺のテラスや遊歩道のある親水空間を整備し市民に開放する。この親水空間を拠点として、計画地外周部を回遊するように緑の回廊（グリーンコリドー）を整備する。

対象区域全体整備方針

グリーンコリドーとマチがつくる未来の都市

まち全体（対象区域）においてもアキチは２つのステップによってマチに変ってゆく。

駅前（必須提案区域）から延びるグリーンコリドーはまち全体（対象区域）を回遊し、マチを連携する。このプロセスを経て、グリーンコリドーによってつながったマチが拠点分散型の未来の都市を形成する。